

基本目標 5

快適で暮らしやすい都市機能の

充実した美しいまちをつくる

《都市基盤》

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

				事業番号	149
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	都市マスタープランの策定・推進			
	担当部署名	都市建設部都市計画課 計画班			
	款項目及び予算名	7款3項1目 都市計画総務費	新市基本計画	○	
	予算事業名	都市計画決定・変更に要する経費	主要事業		
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5-①-1 計画的な土地利用の推進、5-③-3 住宅施策の推進			スマイルプラン
	施策の方向性	5-①-1 計画的な土地利用の推進 都市マスタープランで都市環境、自然環境が調和できるような望ましい都市の将来像を定め、その将来像に向けて木下駅圏、小林駅圏の活性化事業や業務地を含む千葉ニュータウン事業、印旛中央地区土地区画整理事業等の土地利用を推進していきます。 5-③-3 住宅施策の推進 市民の住生活の安定と向上を図っていくため、災害に強く、人や環境にやさしい住宅施策を推進していきます。			
事業内容等	事業年度	平成16年度から実施			
	事業の実施目的及び概要	都市マスタープランの全体構想に掲げている将来都市像、基本方針及び地区別構想などを実現させるため、各整備項目等の実現化手法や目標年次を定め、各事業の推進を図る。			
	対 象	市民			
	根拠法令・関連計画 等	都市計画法			
	年度	年度計画の内容		年度の事業実績・成果	
	平成27年度	都市マスタープランに位置付けた各整備項目の実現化手法等により、目指す都市づくりの実現を推進する。		各整備項目の実現化手法等により、都市づくりを推進した。	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)						0
		予算現額						0
		決算額						0

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	都市マスタープランの見直し作業	%	目標値	100	0	0	0
			実績値	100	0	0	0
	地区計画区域における行為の届出数	件	目標値	190	190	190	190
			実績値	253	332	431	421
			目標値				
			実績値				
成果指標	主要な実現化手法の事業化(実施計画)	本	目標値	47	0	0	0
			実績値	37	0	0	0
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
①活動に対する評価	A 目標値を上回る	地区計画の区域内に、住宅建設が進んだため届出の件数が大幅に上回った。
②成果に対する評価	F 計画なし(目標設定なし)	
③総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	地区計画に沿った住宅が建設され、良好な都市環境と魅力的な街並みの形成が図られた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	「印西市都市マスタープラン」は、平成24年度に策定が終了しており、目標年度は平成32年度と設定されている。次期の計画は平成30年度から策定を予定している。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

事業番号	150
------	-----

事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	都市計画GIS整備事業		
	担当部署名	都市建設部都市計画課 計画班		
	款項目及び予算名	7款3項1目 都市計画総務費	新市基本計画	
	予算事業名	都市計画GIS整備事業	主要事業	
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 計画的な土地利用の推進	スマイルプラン	
	施策の方向性	都市マスタープランで都市環境、自然環境が調和できるような望ましい都市の将来像を定め、その将来像に向けて木下駅圏、小林駅圏の活性化事業や業務地を含む千葉ニュータウン事業、印旛中央地区土地区画整理事業等の土地利用を推進していきます。		
事業内容等	事業年度	平成17年度から実施		
	事業の実施目的及び概要	都市計画基本図や都市計画情報等のデータを電子化し運用することにより、地図情報の高度化・効率化を図るとともに、市民サービスの向上を目指す。		
	対 象	市民		
	根拠法令・関連計画 等			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	・データ修正 ・運用支援 ・システム保守	・データ修正 ・運用支援 ・システム保守	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					18,000,000	18,000,000
		予算現額					18,075,000	18,075,000
		決算額					17,872,666	17,872,666

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	データ更新又はシステムの定期点検	回	目標値	4	4	4	4
			実績値	4	4	4	4
	市民への周知活動	回	目標値	2	2	2	2
			実績値	2	2	2	2
			目標値				
			実績値				
成果指標	都市計画情報案内システムの検索回数	回	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	7,419	7,232	7,867	8,197
	都市計画情報案内システムの印刷枚数	枚	目標値	1,000	1,000	1,000	1,000
			実績値	1,090	1,074	1,379	1,512
	法規制照会に対する職員窓口対応の割合(職員対応回数/全体件数)	%	目標値	50	50	45	45
			実績値	50	50	45	45

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	システム保守・点検等については計画どおり行われた。
成果に対する評価	A 目標値を上回る	システムについて利用者に浸透してきており、都市計画情報の検索や印刷が増加している。これに伴い職員の窓口対応が減り業務の効率化が図られた。
総合的な評価	A 計画以上の事業実績・成果であった	都市計画GISの導入により、地図情報の高度化・効率化が図られた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	都市計画基本図や都市計画情報等のデータを電子化しGISで運用することにより地図情報の高度化・効率化が図られている。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

				事業番号	151
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	千葉ニュータウンの市街化促進			
	担当部署名	都市建設部都市計画課 千葉ニュータウン事業収束対応室			
	款項目及び予算名		新市基本計画	○	
	予算事業名		主要事業		
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 計画的な土地利用の推進	スマイルプラン		
	施策の方向性	都市マスタープランで都市環境、自然環境が調和できるような望ましい都市の将来像を定め、その将来像に向けて木下駅圏、小林駅圏の活性化事業や業務地を含む千葉ニュータウン事業、印旛中央地区土地区画整理事業等の土地利用を推進していきます。			
事業内容等	事業年度	平成26年度～			
	事業の実施目的及び概要	新住宅市街地開発事業完了後の千葉ニュータウンについて、関係機関と連携しながら市街化を促進し、持続的発展につなげる。			
	対 象	CNT区域全域、及び区域に関する公共施設			
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果		
	平成27年度	新住宅市街地開発事業完了後のまちづくりとして、望ましい将来都市像を実現するため、引き続き千葉ニュータウンの熟成に努める。	・公共施設引継ぎ協議の実施 ・公共施設管理に関する協議の実施 ・土地処分に関する協議の実施		

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)						0
		予算現額						0
		決算額						0

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	土地処分面積	ha	目標値			49	49
			実績値			37	48
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				
成果指標	CNT区域内人口	人	目標値			57400	59000
			実績値			55382	57273
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	活動目標、成果目標ともにほぼ目標値どおりであり、千葉ニュータウン区域の市街化は進捗している。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	活動目標、成果目標ともにほぼ目標値どおりであり、千葉ニュータウン区域の市街化は進捗している。 今後も、これまでと同様に関係機関と連携しながら千葉ニュータウン区域の持続的発展を促進する。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	152
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	印旛中央地区区画整理事業の促進	
	担当部署名	都市建設部都市整備課印旛中央地区担当班	
	款項目及び予算名	7款3項5目 印旛中央地区土地区画整理事業	新市基本計画 ○
	予算事業名	印旛中央地区土地区画整理事業	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 計画的な土地利用の促進	スマイルプラン
	施策の方向性	都市マスタープランで都市環境、自然環境が調和できるような望ましい都市の将来像に向けて木下駅圏、小林駅圏の活性化事業や業務地を含む千葉ニュータウン事業、印旛中央地区土地区画整理事業等の土地利用を推進していきます。	
事業内容等	事業年度	平成22年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	印旛日本医大駅圏において、千葉ニュータウン区域及び日本医科大学千葉北総病院と一体となった市街地形成を目指し、土地区画整理事業を促進する。	
	対 象	印旛中央土地区画整理組合設立準備委員会	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	・組合設立準備委員会の運営 ・地権者への意向調査に要する経費	4回の準備委員会の開催、1回の全体説明会の開催、準備委員会たよりを2回発行、地権者に対する意向調査を実施。全体説明会において事業化断念の意思確認をして準備委員会は解散した。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					1,866,000	1,866,000
		予算現額					84,000	84,000
		決算額					60,628	60,628

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	準備委員会の開催	回	目標値	12	12	12	12
			実績値	9	7	4	4
	地権者全体説明会	回	目標値	1	1	1	1
			実績値	0	1	0	1
			目標値				
			実績値				
成果指標			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	C 目標値をやや下回る	目標値を下回るものの、準備委員会を4回開催し、解散に向けた事務処理などを適切に行った。
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	地権者に対する意向調査のとりまとめや、今後の土地利用の可能性の検討、準備委員会からの要望事項である連絡会の設置に向けた調整などを適切に行った。
総合的な評価	C 計画をやや下回る事業実績・成果であった	目標値と実績値の差が大きい、総合的には計画をやや下回る評価としたが、意向調査結果のとりまとめや、連絡会の設置に向けた調整などで一定の成果をあげたと判断した。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
2 事業を見直す	土地区画整理事業以外の手法検討も視野に入れ、事業を総体的に精査し直し今後の土地利用について適正な誘導を図っていく。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

			事業番号	153
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	小林駅南口駅前広場等整備事業		
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班		
	款項目及び予算名	7款3項1目 道路新設改良	新市基本計画	○
	予算事業名	市道18-045号線(小林駅南口駅前広場等)整備事業	主要事業	○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5-2 市街化区域の都市機能の向上 5-2 公共交通の充実	スマイルプラン	スマイル3
	施策の方向性	5-2 市街化区域の都市機能の向上 市街化区域の都市機能の向上を図るため、木下駅、小林駅周辺を中心に市街地の整備を推進していきます。 5-2 公共交通の充実 地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めています。		
事業内容等	事業年度	平成21年度から平成28年度まで		
	事業の実施目的及び概要	小林駅の自由通路及び駅舎の橋上化とあわせ、南口駅前広場を整備することにより、周辺地域の活性化及び駅利用者の利便性の向上を図る。		
	対 象	市民、駅利用者		
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン・都市再生整備計画		
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	小林駅南口駅前広場用地取得 小林駅南口自由通路整備工事	小林駅南口自由通路整備工事	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	113,116,000			112,600,000	14,189,000	239,905,000
		予算現額	47,223,000			38,600,000	17,454,680	103,277,680
		決算額	0			34,344,000	15,203,794	49,547,794

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	用地交渉	回	目標値	15	15	10	0
			実績値	5	15	10	10
	関係機関との協議	回	目標値	10	7	7	0
			実績値	11	8	7	
			目標値				
			実績値				
成果指標	用地取得率	%	目標値	0	84	100	100
			実績値	0	16	90	90
	設計進捗率	%	目標値	100	100	0	0
			実績値	76	100	0	
	工事進捗率	%	目標値	0	0	0	65
			実績値	0	0	0	20

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	C 目標値をやや下回る	用地取得のため協議を継続中。
総合的な評価	C 計画をやや下回る事業実績・成果であった	自由通路建設の目途がたった。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	平成28年度に自由通路は完成予定である。事業の早期完了をめざしたい。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	154
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	北千葉道路の建設促進	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路新設改良事業(その他市道整備事業)	主要事業
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成2年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	北千葉道路は、千葉ニュータウンと成田市における業務核都市の骨格となる交通軸であるため、早期完成に向けて、関係自治体と連携を取りながら、要望を実施する。 なお、東京方面への計画の具体化及び事業化についても積極的に要望を行う。	
	対 象	北千葉道路の整備促進	
	根拠法令・関連計画 等	北千葉道路の整備促進	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	国等に対して要望を実施	千葉ニュータウンと成田市における業務核都市の骨格となる交通軸であるため、早期完成に向けて、関係市と連携を取りながら、要望を実施した。 平成27年度予算において、未着手であった市川市、鎌ヶ谷市間の直轄調査費が認められた。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					90,000	90,000
		予算現額					90,000	90,000
		決算額					90,000	90,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	関係市村と連携を図りながら要望活動を実施	回	目標値	1	1	1	1
			実績値	1	1	1	2
			目標値				
			実績値				
成果指標	北千葉道路の早期完成を目標とする。		目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	F 計画なし(目標設定なし)	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	関係自治体等と連携を図りながら要望活動を実施した。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	昨年度より、国交省の直轄調査が始まった。市川市、鎌ヶ谷市間について、今後も事業化まで早期に進められるよう更に要望活動を行っていきたい。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

			事業番号	155
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	市道00-031号線整備事業		
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班		
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画	○
	予算事業名	住宅市街地基盤整備事業	主要事業	○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン	
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。		
事業内容等	事業年度	平成13年度から実施		
	事業の実施目的及び概要	千葉ニュータウン印西牧の原駅圏とJR成田線小林駅圏を結ぶ幹線道路網であり、平岡自然公園への連絡道路でもある市道00-031号線を、他の路線と一体的に整備し、市内南北を連結する幹線道路網の拡充を図る。 ＜全体計画＞総延長 3,150m 幅員 14.5m		
	対 象	市民並びに道路利用者		
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン		
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	事業用地取得 詳細設計	擁壁詳細修正設計 橋りょう詳細修正設計	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	19,532,000				44,339,000	63,871,000
		予算現額	0				22,310,000	22,310,000
		決算額	0				22,046,020	22,046,020

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	用地交渉	回	目標値	5	5	5	5
			実績値	2	7	5	7
	関係機関との協議	回	目標値	5	5	5	3
			実績値	2	6	5	5
			目標値				
			実績値				
成果指標	整備率(補助事業費ベース)	%	目標値	50	50	65	80
			実績値	50	50	50	50
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	C 目標値をやや下回る	工事は休止状態ではあるが、再開に向け活動している。
総合的な評価	C 計画をやや下回る事業実績・成果であった	用地取得が難航して、工事は休止状態ではあるが、再開に向け活動している。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	用地取得が難航しているが、地権者は境界立会、事業説明等協議に応じてくれるようになってきている。工事再開に向け着実に前進していると感じている。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	156
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	市道00-116号線整備事業	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路新設改良事業(市道00-116号線整備事業)	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成14年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	狭間で屈曲箇所が多い2級幹線市道00-116号線の道路改良を実施し、交通安全の向上を図る。 ＜全体計画＞総延長 1,200m 幅員 9.5m	
	対 象	市民ならびに道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	道路改良工事 L=55m 事業用地維持管理	道路改良工事 L=60m 事業用地維持管理

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					15,750,000	15,750,000
		予算現額					10,453,000	10,453,000
		決算額					8,035,820	8,035,820

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	工程会議	回	目標値	3	6	6	6
			実績値	3	6	6	6
			目標値				
			実績値				
成果指標	拡幅整備済率(事業延長L=1,200m)	%	目標値	15	25	50	75
			実績値	15	15	15	20
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	D 目標値を下回る	事業休止期間があったため、成果が目標値に追いついていないが、コストダウンに努め工事を再開することができた。
総合的な評価	D 計画を下回る事業実績・成果であった	本工事を再開することができた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	本工事を再開することが出来たので、早期完成を目指したい。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	157
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	市道00-026号線延伸区間道路整備事業	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路新設改良事業(市道00-026号線延伸区間道路整備事業)	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成14年度から平成29年度まで	
	事業の実施目的及び概要	県道千葉竜ヶ崎線と船橋印西線を接続する市道00-026号線延伸区間道路の道路改良事業を行い、他の路線と一体的な整備により市内南北を連結する幹線道路網の拡充を図る。 <全体計画> 総延長 1,252m 幅員 14.5m	
	対 象	市民ならびに道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	ボックスカルバート工 L=44m	ボックスカルバート工 L=86m 道路改良工 L=680m 堤脚水路等詳細設計

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	49,225,000				57,786,000	107,011,000
		予算現額	115,008,510				106,495,094	221,503,604
		決算額	77,134,510				80,550,734	157,685,244

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	用地交渉	回	目標値	10	5	0	
			実績値	10	10	5	
	関係機関との協議	回	目標値	0	7	7	0
			実績値	0	0	7	5
			目標値				
			実績値				
成果指標	用地取得率	%	目標値	100	100	100	
			実績値	97	97	100	
	工事進捗率	%	目標値	0	30	60	100
			実績値	0	30	42	60
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	C 目標値をやや下回る	進捗に伴い判明した課題解決のために事業期間の見直しをしたため、計画目標値との乖離が生じた。
総合的な評価	C 計画をやや下回る事業実績・成果であった	計画の修正が生じているが、課題を解決し着実に進捗している。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	社会資本整備交付金事業として完成を目指す。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

事業番号	158
------	-----

事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	松崎・吉田線整備事業		
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班		
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画	○
	予算事業名	道路新設改良事業(市道松崎吉田線整備事業)	主要事業	○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン	
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。		
事業内容等	事業年度	平成22年度から実施		
	事業の実施目的及び概要	松崎地区と吉田地区を結ぶ道路は、狭隘で屈曲しているため新たな道路を新設し、交通安全の向上を図る。 <全体計画> 総延長 1,700m 幅 員 9.0m		
	対 象	市民ならびに道路利用者		
	根拠法令・関連計画 等			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	予備設計(B) 用地測量 事業用地取得	予備設計(B)	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					24,000,000	24,000,000
		予算現額					24,000,000	24,000,000
		決算額					9,921,960	9,921,960

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	設計打合せ	回	目標値	7	3	6	6
			実績値	8	8	6	5
	用地交渉	回	目標値	0	40	40	20
			実績値	0	0	0	0
	説明会	回	目標値	0	2	2	0
			実績値	0	0	2	0
成果指標	設計進捗率	%	目標値	100	0	0	0
			実績値	25	50	60	60
	用地買収率	%	目標値	0	40	80	100
			実績値	0	0	0	0
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	C 目標値をやや下回る	関係機関との協議を完了した。
成果に対する評価	C 目標値をやや下回る	道路線形を決めることが出来た。
総合的な評価	C 計画をやや下回る事業実績・成果であった	関係機関との協議を終え、道路線形を決めることが出来たが、用地取得にまで至らなかった

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	道路線形が決まり、用地取得に向けた準備を進める。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	159
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	安食ト杭・中田切線整備事業	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路新設改良事業(その他市道整備事業)	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成24年度～平成27年度	
	事業の実施目的及び概要	本埜地区の骨格をなす1級幹線市道安食ト杭・中田切線(101号線)の道路改良を実施し、幹線道路網の拡充を図る。 ＜全体計画＞総延長 900m 幅員 7.0m	
	対 象	市民ならびに道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	道路改良工事 L=282m	道路改良工事 L=282m

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					46,991,000	46,991,000
		予算現額					46,991,000	46,991,000
		決算額					36,216,720	36,216,720

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	工程会議	回	目標値	6	6	6	6
			実績値	6	6	6	6
			目標値				
			実績値				
成果指標	工事進捗率	%	目標値	24	48	73	100
			実績値	24	48	73	100
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
5 終了	平成27年度にて事業完了。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	160
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	竜腹寺線整備事業	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路新設改良事業(市道竜腹寺線整備事業)	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成26年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	笠神・中根周辺と産業・業務拠点であるみどり台を結ぶ路線区間の一部を構成する地区幹線道路として整備し、幹線道路網の拡充を図る。 ＜全体計画＞総延長 370m(うち橋梁144m) 幅員 14.0m	
	対 象	市民ならびに道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン、新市基本計画	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	路線・用地測量 事業用地維持管理	事業用地維持管理

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					11,500,000	11,500,000
		予算現額					11,500,000	11,500,000
		決算額					210,000	210,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	関係機関協議	回	目標値	0	0	2	2
			実績値	0	0	2	2
			目標値				
			実績値				
成果指標	設計進捗率	%	目標値	0	0	100	100
			実績値	0	0	10	10
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	D 目標値を下回る	事業費の確保が出来なかった。
総合的な評価	D 計画を下回る事業実績・成果であった	事業化に向け、測量業務を進められた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	新市基本計画に位置づけされている事業であり本埜地区の利便性向上に不可欠の道路と考えている。 巨額の事業費のため財源の確保等の諸問題が未解決であるが推進したい。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	161
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	市道00 - 107号線整備事業	
	担当部署名	都市建設部建設課 計画班	
	款項目及び予算名	7款1項3目 道路新設改良費	新市基本計画
	予算事業名	道路新設改良事業(その他市道整備事業)	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成26年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	主要地方道千葉竜ヶ崎線バイパスと千葉臼井印西線を補完する2級幹線市道00 - 107号線の道路改良を実施し、利便性及び交通安全の向上を図る。 ＜全体計画＞総延長 1,450m 幅員 10.0m	
	対 象	市民ならびに道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市都市マスタープラン	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	路線測量 予備設計(B)	交差点予備設計

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					11,200,000	11,200,000
		予算現額					6,318,000	6,318,000
		決算額					1,944,000	1,944,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	関係機関との協議	回	目標値			4	10
			実績値				10
			目標値				
			実績値				
	成果指標		目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	F 計画なし(目標設定なし)	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	関係機関との協議により、道路線形を決めることが出来た。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	道路線形が決まり、用地取得に向けた準備を進める。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

1.事業の概要				事業番号	162
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	道路維持管理事業			
	担当部署名	都市建設部土木管理課 維持班			
	款項目及び予算名	7款1項2目 道路維持費	新市基本計画	○	
	予算事業名	道路維持修繕に要する経費	主要事業		
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン		
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めています。			
事業内容等	事業年度				
	事業の実施目的及び概要	既存の道路状況を把握するとともに、それに対する道路修繕・補修等を実施するための管理体制を確立し、安全で快適な道路環境の拡充を図る。			
	対 象	道路利用者			
	根拠法令・関連計画 等	道路法			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果		
	平成27年度	・市道及び市管理道路等の維持・管理 ・道路パトロールの実施等 ・ふれあいロード美化活動への支援 ・舗装修繕計画に基づく舗装修繕	道路パトロール (週5日、246日/年) ふれあいロード美化活動 7団体に花苗支給 市道1-8号線舗装修繕工事 工事延長L=300m、 市道00-026号線舗装修繕工事 工事延長L=100m 他		

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	44,788,000				350,053,000	394,841,000
		予算現額	34,279,000				374,667,774	408,946,774
		決算額	34,279,000				335,727,823	370,006,823

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	道路パトロール	回	目標値	156	156	156	156
			実績値	242	244	244	246
	道路パトロール距離	km	目標値	11,700	11,700	11,700	11,700
			実績値	12,100	12,200	12,200	12,300
			目標値	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0
成果指標	道路パトロールで発見し、補修した箇所	箇所	目標値	0	0	0	0
			実績値	204	385	363	1,090
	市民からの情報提供により補修した箇所	箇所	目標値	0	0	0	0
			実績値	17	21	49	98
	道路が原因の事故	件	目標値	0	0	0	0
			実績値	1	0	1	7

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	A 目標値を上回る	
成果に対する評価	F 計画なし(目標設定なし)	数値的な目標は設定していない
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	道路が原因の事故があったため

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	道路パトロール(週5日、246日/年)や市民からの情報提供などにより、道路補修を実施し、事故に直結する破損箇所の対応に努めた。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	163
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	雨水排水整備事業	
	担当部署名	都市建設部土木管理課 排水対策班	
	款項目及び予算名	7款1項2目 道路維持費	新市基本計画 ○
	予算事業名	道路維持修繕に要する経費	主要事業
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成26年度～平成29年度	
	事業の実施目的及び概要	発作地先における金山落掘を整備することにより、降雨時に定率的に発生する冠水の解消を図る。	
	対 象	道路利用者	
	根拠法令・関連計画 等	印西市雨水排水基本計画	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	金山落とし掘 排水路整備工事 L=0.449km	排水路整備工事 L=0.294km

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)		0			60,090,000	60,090,000
		予算現額		2,167,000			57,923,000	60,090,000
		決算額		2,291,000			41,295,760	43,586,760

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	現地踏査・排水施設設計	m	目標値			1,000	
			実績値			1,041	
	排水路整備工事	m	目標値			333	449
			実績値			43	294
			目標値				
			実績値				
成果指標	現地踏査・排水施設設計	m	目標値			1,000	
			実績値			1,041	
	排水路整備工事	m	目標値			333	449
			実績値			43	294
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(特記事項)
活動に対する評価	D 目標値を下回る	
成果に対する評価	D 目標値を下回る	
総合的な評価	D 計画を下回る事業実績・成果であった	当初3年で完成する予定であったが、4年で完成する予定になったため

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	発作地先、金山落とし掘の水路改修については、平成27年度294mの整備を実施した。次年度以降、早期完成を目指す。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

事業番号	164
------	-----

事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	橋りょう長寿命化修繕事業		
	担当部署名	都市建設部土木管理課 維持班		
	款項目及び予算名	7款1項4目 橋りょう維持費	新市基本計画	
	予算事業名	橋りょう維持修繕に要する経費	主要事業	
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 道路網の整備・充実	スマイルプラン	
	施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていくとともに、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備・充実を進めていきます。		
事業内容等	事業年度	平成26年度から		
	事業の実施目的及び概要	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、適切な修繕を計画的に実施することにより、橋の延命を図り橋梁事業コストの縮減を目的とする。		
	対 象	道路利用者		
	根拠法令・関連計画 等	道路法・橋梁長寿命化修繕計画		
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	橋梁7橋の点検 橋梁3橋の修繕	橋梁7橋の点検	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	10,395,000				11,965,000	22,360,000
		予算現額	10,395,000				11,965,000	22,360,000
		決算額	10,395,000				10,937,202	21,332,202

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	修繕実施橋梁数	橋	目標値				3
			実績値				0
	点検実施橋梁数	橋	目標値			5	7
			実績値			5	7
			目標値				
			実績値				
成果指標	修繕実施橋梁数	橋	目標値				3
			実績値				0
	点検実施橋梁数	橋	目標値			5	7
			実績値			5	7
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(特記事項)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	点検の結果修繕の必要がなかったことから橋りょうの修繕をしなかったため。
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	市内の橋梁173橋について、修繕を効率的に行うため点検計画に基づき、定期点検を実施しており、平成27年度においては7橋梁の点検を実施した。次年度以降も点検を継続し、修繕についても点検結果により平行し進める。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

				事業番号	165
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	コミュニティバス運行事業			
	担当部署名	企画財政部交通政策課 交通政策班			
	款項目及び予算名	2款1項6目 企画費	新市基本計画	○	
	予算事業名	ふれあいバス運行事業	主要事業	○	
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 2 公共交通の充実	スマイルプラン	スマイル3	
	施策の方向性	地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めていきます。			
事業内容等	事業年度	平成10年度から実施			
	事業の実施目的及び概要	市内公共施設等への市民の移動手段として、コミュニティバス(ふれあいバス)を運行し、市内公共交通の充実を図る。			
	対 象	市民			
	根拠法令・関連計画 等				
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果		
	平成27年度	- ふれあいバスの運行 - 市民からの要望、意見及びバス利用状況等の把握 - 必要に応じて随時ルート等を改正	- ふれあいバス6ルート(実証実験を含む)を運行した。 - 布佐ルートを増便し、利用者の利便性を図った上で、本格運行へ移行した。 - 印旛支所ルートの実証実験において増便し、利用者の利便性向上を図った。 - 南ルートのバス停2ヶ所(草深新井堀、草深こじか保育園前)を増設し、利用者の利便性向上を図った。		

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)				3,594,000	80,484,000	84,078,000
		予算現額				3,594,000	80,484,000	84,078,000
		決算額				3,375,704	74,807,470	78,183,174

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1日当たりの運行便数(年度末時点)	便	目標値	55	55	56	56
			実績値	54	54	54	57
	ふれあいバス停留所数	箇所	目標値	135	135	135	135
			実績値	135	135	135	136
			目標値				
			実績値				
成果指標	1日当たりの利用者数	人	目標値	570	700	700	700
			実績値	617	614	613	651
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	市内に点在する公共施設等の利用について、市民の足を確保し利便及び福祉の向上を図るため、引き続き事業を継続する。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	166
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	路線バス運行対策事業	
	担当部署名	企画財政部交通政策課 交通政策班	
	款項目及び予算名	2款1項6目 企画費	新市基本計画 ○
	予算事業名	路線バス運行対策事業	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 2 公共交通の充実	スマイルプラン スマイル3
	施策の方向性	地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めています。	
事業内容等	事業年度	平成20年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	地域住民の生活に必要なバス路線の充実を図るため、路線バス事業者に必要な支援を行う。	
	対 象	市民	
	根拠法令・関連計画 等		
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	・路線バス事業者への助成 ・利便性向上に向けた検討	・市民の交通利便性を確保するため、市内4路線に対して運行補助を行うとともに、さらなる利便性向上のため、バス停留所増設や運賃の見直し等について事業者と協議を行った。 ・六合路線において、バス停留所2ヶ所を増設するとともに、一部運行の見直しを行い、利便性向上を図った。 ・印旛学園線を増便し、利便性向上を図った。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					21,761,000	21,761,000
		予算現額					21,761,000	21,761,000
		決算額					15,298,662	15,298,662

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	1日あたりの運行便数(年度末時点)	便	目標値	104	104	104	104
			実績値	104	104	104	104
			目標値				
			実績値				
成果指標	利用者数	人	目標値	200,000	200,000	200,000	200,000
			実績値	214,565	205,878	180,462	181,200
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	市内の公共公益施設、周辺鉄道駅等への交通手段を確保し、市民の利便性の向上を図るため、引き続き事業を継続する。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	167
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	北総線高運賃対策事業	
	担当部署名	企画財政部交通政策課 交通政策班	
	款項目及び予算名	2款1項6目 企画費	新市基本計画 ○
	予算事業名	鉄道整備等促進活動に要する経費	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 2 公共交通の充実	スマイルプラン スマイル3
	施策の方向性	地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めていきます。	
事業内容等	事業年度	平成17年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	千葉県、沿線自治体、鉄道事業者等と連携し、北総線利用者のさらなる利便性の向上、沿線地域の活性化を図るとともに、高運賃対策に取り組む。	
	対 象	利用者	
	根拠法令・関連計画 等	北総線の運賃値下げに係る合意書	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	・関係機関と連携し、北総線利用者のさらなる利便性の向上、沿線地域の活性化及び鉄道の利用促進を図る。 ・関係機関と連携し、北総線高運賃対策に取り組む。	平成27年5月に、北総線沿線地域の活性化を図ることを目的に、北総鉄道㈱と沿線自治体、千葉県等による「北総線沿線地域活性化協議会」を新たに立ち上げ、沿線地域の活性化に向けたイベントの支援・協力を行った。また、北総線利用促進を図るため、吉高の大桜無料送迎バスの運行を新たに実施した。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					580,000	580,000
		予算現額					580,000	580,000
		決算額					480,400	480,400

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	北総線沿線地域活性化協議会等の後援等によるイベント等の開催回数	回	目標値	20	20	25	25
			実績値	26	24	26	28
	県及び沿線自治体等による勉強会等の開催	回	目標値	3	3	3	3
			実績値	4	11	6	0
			目標値				
			実績値				
成果指標	北総線の利用者数(市内3駅の年間乗降人員の合計)	人	目標値	48,220	50,000	前年比増	前年比増
			実績値	50,267	42,294	40,864	41,678
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	新たな「北総線沿線地域活性化協議会」を設立するなど、県や沿線自治体、北総鉄道㈱等の関係機関と連携を図りながら、北総線の利用促進や沿線地域の活性化に取り組んだ。
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	鉄道事業者、千葉県、沿線自治体等と連携し、北総線利用者のさらなる利便性向上と、北総線沿線地域の活性化を図るとともに、高運賃による沿線住民の家計への負担を軽減することを目的に、引き続き事業を継続する。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	168
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	北総線耐震化対策事業	
	担当部署名	企画財政部交通政策課 交通政策班	
	款項目及び予算名	2款1項6目 企画費	新市基本計画
	予算事業名	鉄道整備等促進活動に要する経費	主要事業 ○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 2 公共交通の充実	スマイルプラン スマイル3
	施策の方向性	地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めています。	
事業内容等	事業年度	平成27年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	首都直下地震等の大規模地震に備え、国土強靱化の観点から地震等における空港アクセス線の確保を図るとともに、北総線を利用する市民等の安全輸送を確保するため、国、千葉県及び沿線自治体と協調して、鉄道事業者が実施する耐震化事業に対し支援を行う。	
	対 象	利用者	
	根拠法令・関連計画 等	北道線耐震化事業に関する協定書	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	・鉄道事業者が実施する北総線耐震化事業に要する経費への補助	柱補強374本、橋脚補強2基、落橋防止6.5連、合計382箇所の耐震化事業に対して補助金を交付した。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					25,026,000	25,026,000
		予算現額					25,026,000	25,026,000
		決算額					25,024,000	25,024,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	耐震補強工事の実施	箇所	目標値				382
			実績値				382
			目標値				
			実績値				
成果指標	事業進捗率	%	目標値				25
			実績値				25
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	北総線を利用する市民等の安全輸送を確保するため、国、千葉県及び沿線自治体と協調して、鉄道事業者が実施する耐震化事業に対し、引き続き支援を行う。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

1.事業の概要				事業番号	169
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	成田線活性化事業			
	担当部署名	企画財政部交通政策課 交通政策班			
	款項目及び予算名	2款1項6目 企画費	新市基本計画	○	
	予算事業名	鉄道整備等促進活動に要する経費	主要事業		
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - 2 公共交通の充実	スマイルプラン	スマイル3	
	施策の方向性	地域の実情や市民ニーズに応じた持続可能な市内バス公共交通の実現をめざすとともに、北総線・成田スカイアクセス線やJR成田線の利用促進及び利便性向上に努めています。			
事業内容等	事業年度	昭和54年度から実施			
	事業の実施目的及び概要	利便性、快適性の向上を図るため、成田線の増発や他線との接続改善及び駅施設の整備等について、JRに要望等を実施するとともに、利用促進に向けた事業を展開する。			
	対 象	利用者			
	根拠法令・関連計画 等				
	年度	年度計画の内容		年度の事業実績・成果	
	平成27年度	・JRに対しての要望活動等の実施 ・成田線活性化推進協議会における利用促進等の活動		成田線利用者の利便性、快適性の向上を図るため、増便等について、関係市町と連携を図りながら、JRに要望等を実施した。 上野東京ラインの開業により、東京駅・品川駅等、都心への直通電車乗り入れが実現した。 また、JRが主催するイベント(駅からハイキング)に協力し、成田線の活性化を図った。	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					107,000	107,000
		予算現額					107,000	107,000
		決算額					107,000	107,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	駅からハイキングの実施	回	目標値	2	2	2	2
			実績値	2	2	2	2
	関係市町村と連携を図りながらJRへ要望活動等を実施	回	目標値	2	2	2	2
			実績値	3	4	3	3
			目標値				
			実績値				
成果指標	駅からハイキング参加者総数	人	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000
			実績値	810	1,000	1,066	1,050
	成田線(木下駅と小林駅を合計)の1日あたりの乗降者数	人	目標値	5,450	5,450	5,450	5,450
			実績値	4,484	4,423	4,328	4,165
	成田線の運行本数	本	目標値	80	80	80	80
			実績値	80	80	80	80

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	A 目標値を上回る	
成果に対する評価	C 目標値をやや下回る	駅からハイキング参加者数について、目標値を下回ったため。
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	駅からハイキング参加者数については、目標値を大きく下回る状況であるが、JRや沿線市町と連携を図りながらPRに努めており、前年度並みの参加者がいた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	成田線の輸送力増強及び利便性向上を促進するとともに、沿線内外の利用促進を図るため、引き続き事業を継続する。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

			事業番号	170
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	公共下水道施設整備事業		
	担当部署名	都市建設部下水道課 工務管理班		
	款項目及び予算名	1款2項1目 汚水対策処理費	新市基本計画	○
	予算事業名	公共下水道施設整備事業・特定環境保全公共下水道施設整備事業	主要事業	○
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 上下水道の整備	スマイルプラン	スマイル1
	施策の方向性	河川・湖沼などの水質の保全と快適な生活環境の形成に向け、公共下水道の整備を推進していくとともに、市街地の浸水防除に努めていきます。また、水道については、将来にわたって安全で良質な水を安定的に供給できるよう、水源の確保や水道施設の維持・充実に努めていくとともに経営の効率化を図り、利用者へのサービスの向上に努めていきます。		
事業内容等	事業年度	昭和49年度から実施		
	事業の実施目的及び概要	都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共水域の水質保全に資するため、汚水枝線の整備をする。		
	対 象	市民及び自然環境		
	根拠法令・関連計画 等	下水道法・手賀沼流域関連公共下水道事業計画・印旛沼流域関連公共下水道事業計画		
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果	
	平成27年度	○ 公共 木下地区公共下水道整備工事 L=107m ○ 特環 岩戸地区公共下水道整備工事 A=1.59ha L=247m	○ 公共 小林地区公共下水道整備工事 L=66m 小林地区公共下水道詳細設計業務委託L=345m 公共下水道事業計画変更業務委託 ○ 特環 岩戸地区公共下水道整備工事 L=241m	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	5,500,000		8,900,000	350,000	18,774,000	33,524,000
		予算現額	5,500,000		3,900,000	350,000	78,086,000	87,836,000
		決算額	3,190,000		8,900,000	73,607	17,969,503	30,133,110

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	面整備・付帯工事発注数	本	目標値	2	2	2	2
			実績値	1	2	4	2
	詳細設計・測量業務委託発注数	本	目標値	4	2	2	2
			実績値	4	2	2	2
			目標値				
			実績値				
成果指標	面整備・付帯工事発注率 (実績数値/目標数値)	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	50	100	200	100
	詳細設計・測量業務委託発注率 (実績数値/目標数値)	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	100	100	100	100
	整備面積	ha	目標値	2	1	1	3
			実績値	2	1	1	2

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	生活環境の向上、公共水域の水質保全のため計画的に公共下水の整備を推進していく。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

				事業番号	171
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	雨水排水対策施設整備事業			
	担当部署名	都市建設部下水道課 工務管理班			
	款項目及び予算名	1款2項2目 雨水排水対策費	新市基本計画	○	
	予算事業名	雨水排水対策施設整備事業	主要事業	○	
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 上下水道の整備	スマイルプラン	スマイル1	
	施策の方向性	河川・湖沼などの水質の保全と快適な生活環境の形成に向け、公共下水道の整備を推進していくとともに、市街地の浸水防除に努めていきます。また、水道については、将来にわたって安全で良質な水を安定的に供給できるよう、水源の確保や水道施設の維持・充実を進めていくとともに経営の効率化を図り、利用者へのサービスの向上に努めていきます。			
事業内容等	事業年度	昭和49年度から実施			
	事業の実施目的及び概要	市街地の雨水排水対策として、公共下水道(雨水)の整備・充実を図り、浸水防除に努める。			
	対 象	市民及び自然環境			
	根拠法令・関連計画 等	下水道法、印西市手賀沼流域関連公共下水道事業計画、印西市印旛沼流域関連公共下水道事業計画			
	年度	年度計画の内容		年度の事業実績・成果	
	平成27年度	木下地区雨水排水整備に係る施行委託 (継続工事)L=440m 木下・竹袋地区雨水排水整備工事 (継続工事)L=253m 手賀2号幹線整備工事 (樽場地護岸)		小林地区公共下水道詳細設計業務委託 L=345m 樽場地護岸詳細修正設計業務委託 (護岸詳細設計) 木下地区雨水排水整備に係る施行委託 (継続工事)L=440m 木下・竹袋地区雨水排水整備工事 (継続工事)L=253.6m 手賀2号幹線整備工事 (樽場地護岸)	

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	84,700,000		456,300,000		132,144,000	673,144,000
		予算現額	84,700,000		471,400,000		182,143,000	738,243,000
		決算額	63,800,000		353,100,000		117,074,290	533,974,290

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	測量・詳細設計等業務委託発注数	本	目標値	5	4	2	2
			実績値	5	2	2	2
	工事発注数	本	目標値	2	3	2	3
			実績値	2	4	4	3
			目標値				
			実績値				
成果指標	測量・詳細設計等業務委託発注率 (実績値/目標値)	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	100	50	100	100
	工事発注率(実績値/目標値)	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	100	133	200	100
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	市街地の浸水防除のため計画的に公共下水道(雨水)の整備を推進していく。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

1.事業の概要				事業番号	172
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	水道施設整備事業			
	担当部署名	水道部水道課 水道事業班			
	款項目及び予算名	1款1項1目 建設工事費	新市基本計画	○	
	予算事業名	配水管の整備	主要事業		
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 1 上下水道の整備	スマイルプラン	スマイル1	
	施策の方向性	河川・湖沼などの水質の保全と快適な生活環境の形成に向け、公共下水道の整備を推進していくとともに、市街地の浸水防除に努めていきます。また、水道については、将来にわたって安全で良質な水を安定的に供給できるよう、水源の確保や水道施設の維持・充実を進めていくとともに経営の効率化を図り、利用者へのサービスの向上に努めていきます。			
事業内容等	事業年度	昭和53年度から実施			
	事業の実施目的及び概要	清浄、豊富、低廉な水の供給による市民の公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与していくことを目的として、未給水区域の配水管新設等を行い配水管網を作り上げ、給水人口の増加と災害時における断水の予防を図る。			
	対 象	給水区域内の市民			
	根拠法令・関連計画 等	水道法			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果		
	平成27年度	<木下地先> ・口径150mmポリエチレン管 ・延長 = 470m <大森地先> ・舗装復旧 A=7430㎡	<木下地先> ・口径150mmポリエチレン管 延長 373.27m ・口径100mmポリエチレン管 延長 0.42m ・口径 75mmポリエチレン管 延長 102.09m <大森地先> ・舗装復旧 A = 7,670㎡ <吉高地先> ・口径200mmダクタイル鋳鉄管 延長 19.34m ・口径 75mmダクタイル鋳鉄管 延長 4.06m		

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					79,005,000	79,005,000
		予算現額					79,005,000	79,005,000
		決算額					64,901,520	64,901,520

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	工事発注	本	目標値	1	1	1	1
			実績値	1	1	3	4
			目標値				
			実績値				
成果指標	配水管整備延長	m	目標値	450	850	850	500
			実績値	513	810	1,137	499
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	今後も計画のとおり配水管の新設を行い、未普及地域の解消及び水道管のループ化を進めていく。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

				事業番号	173
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	景観計画の策定			
	担当部署名	都市建設部都市計画課 計画班			
	款項目及び予算名	7款3項1目 都市計画総務費	新市基本計画	○	
	予算事業名	景観形成促進事業	主要事業	○	
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 2 景観施策の推進	スマイルプラン	スマイル1	
	施策の方向性	本市の良好な景観を守り、育てていくことにより将来にわたって、自然環境と都市環境が調和したまちとしての魅力を高めていく。			
事業内容等	事業年度	平成27年度～平成31年度			
	事業の実施目的及び概要	本市の良好な景観の保全・形成・創出のため、清潔で緑豊かなまちの環境美化、新住宅市街地開発事業で整備された千葉ニュータウンなどの良好な市街地の保全、沼や河川、緑地や農地等の自然環境の保全等について、市民・地域・事業者等が協働により景観創出と環境美化に関する施策を一体的に推進するために、印西市の景観についての資源や色彩等の基本的な景観に寄与または影響するものを調査する「印西市景観基礎調査」、印西市の美しいまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進する「景観基本計画」、景観法の規定に基づき 都市景観形成施策の総合的かつ計画的指針となる「景観計画」を策定し、また、景観条例の制定、及び景観形成推進に資する各種ガイドライン等の作成を行うことを目的とする。			
	対 象	市民			
	根拠法令・関連計画 等	景観法			
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果		
	平成27年度	景観基礎調査	景観市民意向調査、事業者意向調査のアンケートを実施。 印西市景観市民懇談会の設置。 印西市景観計画等策定庁内会議の設置。 市民懇談会と庁内会議作業部会の協働でワークショップを開催し印西の景観について意見をまとめる。 以上の意見等をまとめ景観基礎調査を策定する。 庁内研修会を実施。		

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)					7,800,000	7,800,000
		予算現額					3,504,000	3,504,000
		決算額					3,122,064	3,122,064

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	市民アンケートの実施	回	目標値	0	0	0	1
			実績値	0	0	0	1
	事業者アンケートの実施	回	目標値	0	0	0	1
			実績値	0	0	0	1
			目標値				
			実績値				
成果指標	景観基礎調査	%	目標値	0	0	0	100
			実績値	0	0	0	100
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	市民・事業者アンケートを実施、市民懇談会を設置しワークショップ等を行い意見を聞き、景観基礎調査をまとめた。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	平成27年度は、市内の建築物等の色彩の分析や、自然景観、歴史・文化景観等をまとめ、市民アンケート、事業者アンケートの実施、市民懇談会を設置しワークショップ等を行い意見を聞き、景観基礎調査をまとめた。 平成28年度は、景観基本計画を策定し、その中で、規制方法や保全する手法について検討していく。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	174
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	建築物耐震改修促進事業	
	担当部署名	都市建設部 建築指導課 住宅班	
	款項目及び予算名	7款3項1目 都市計画総務費	新市基本計画 ○
	予算事業名	建築物耐震改修促進事業	主要事業
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 3 住宅施策の推進	スマイルプラン
	施策の方向性	市民の住生活の安定と向上を図っていくため、災害に強く、人や環境に優しい住宅施策を推進していきます。	
事業内容等	事業年度	平成21年度から実施	
	事業の実施目的及び概要	「印西市耐震改修促進計画」に基づき、建築物の耐震診断及び耐震改修を計画的に実施し、耐震化を図っていく。	
	対 象	市民等	
	根拠法令・関連計画 等	建築物の耐震改修の促進に関する法律、千葉県耐震改修促進計画、印西市耐震改修促進計画	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	耐震診断、耐震改修設計及び耐震改修工事に対する補助・助成	戸建住宅の耐震診断：1件実施したが耐震性の不足は見られなかった。

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	917,000	224,000			698,000	1,839,000
		予算現額	917,000	224,000			698,000	1,839,000
		決算額	33,000	16,000			17,000	66,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	啓発活動(広報・周知)	回	目標値	3	3	3	3
			実績値	3	3	3	3
	耐震相談会開催	回	目標値	3	3	3	3
			実績値	2	2	1	2
			目標値				
			実績値				
成果指標	住宅建築物耐震化率	%	目標値	84	86	88	90
			実績値	81	81	91	91
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	例年どおり市内への周知を行ったが、相談への申込件数が少なかった。
成果に対する評価	B ほぼ目標値どおりである	
総合的な評価	B ほぼ計画どおりの事業実績・成果であった	印西市耐震改修促進計画の平成26年度末の耐震化率は90%を達成しており目標値を達成している。しかしながら単年度では相談への申込件数が少なかった。

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	政府が、「新成長戦略」、「住生活基本計画」及び「日本再生戦略」において、住宅の耐震化率を平成32年までに95%とする新たな目標を定めことを受け、国土交通省では耐震改修促進法の改正を行った。このことから印西市耐震改修促進計画を新たに改定し、国の基本方針や首都直下地震緊急推進基本計画、千葉県耐震改修促進計画を踏まえ平成32年度に95%とする。

平成27年度分 実施計画事業評価票

1. 事業の概要

		事業番号	175
事業名及び 担当部署等	実施計画事業名	住宅相談窓口の充実	
	担当部署名	都市建設部建築指導課 住宅班	
	款項目及び予算名	7款3項1目 都市計画総務費	新市基本計画
	予算事業名	住生活基本計画推進事業、建築物吹付けアスベスト対策事業、住宅リフォーム補助事業	主要事業
基本計画における 位置付け	関連する施策名	5 - - 3 住宅施策の推進	スマイルプラン
	施策の方向性	市民の住生活の安定と向上を図っていくため、災害に強く、人や環境にやさしい住宅施策を推進していきます。	
事業内容等	事業年度	平成22年度から	
	事業の実施目的及び概要	住宅・建築物の所有者が適切な維持管理を行えるよう住宅相談窓口の充実を図る。	
	対 象	市民等	
	根拠法令・関連計画等	印西市住生活基本計画	
	年度	年度計画の内容	年度の事業実績・成果
	平成27年度	マンション管理士派遣事業等 :9回/年 建築物吹付けアスベスト対策事業:2件/年 住宅リフォーム補助事業 :100件/年	マンション管理士の派遣 :5件 アスベスト対策への補助 :0件 住宅リフォーム補助事業の実施 :107件

2. 事業費の財源内訳

財源内訳(円)	年度	区分	国庫支出金	県支出金	地方債	他特定財源	一般財源	事業費計
	平成27年度	積算額 (当初予算額)	5,863,000				5,391,000	11,254,000
		予算現額	2,682,000				8,572,000	11,254,000
		決算額	2,682,000				7,446,000	10,128,000

3. 指標及び実績値

指標内容		単位	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動指標	啓発活動(広報・周知)	回	目標値	3	3	3	3
			実績値	3	3	3	3
	耐震相談会の開催(マンション管理士派遣等を含む)	回	目標値	5	5	5	5
			実績値	5	4	7	7
			目標値				
			実績値				
成果指標	補助金等住宅に関する相談件数	件	目標値	30	30	30	30
			実績値	30	35	150	174
			目標値				
			実績値				
			目標値				
			実績値				

4. 事業に対する評価

評価項目	評価値	備考(評価結果へのコメント 又は項目についての課題)
活動に対する評価	A 目標値を上回る	
成果に対する評価	A 目標値を上回る	
総合的な評価	A 計画以上の事業実績・成果であった	

5. 今後の方向性

今後の方向性	選択理由及び今後の具体的な取り組み内容
1 事業継続(現行のまま継続)	国内における人口局面は減少方向に向かっており、近隣市にあっても1,000人/年の単位で減少している市もある状況である。本市における人口は増加傾向にはあるものの、住宅地の拡大程には人口の増加がなされてはならず、逆に人口の減少が5年間で20%に達した地区もある。これらのことを受け、本市における市民の住み続け並びに住宅の適正管理の推進等を鑑み現行のまま継続する。